

[成果情報名] 諫早湾干拓地の初期営農における露地野菜（根菜・いも類）の栽培適応性

[要約] 諫早湾干拓地の初期営農における栽培適応性は秋冬ダイコン、冬ニンジン、春作マルチバレイショで高く、秋作バレイショで認められる。

[キーワード] 諫早湾干拓地、露地野菜、ダイコン、ニンジン、バレイショ、栽培適応性

[担当] 総合農林試験場・企画経営部・干拓科

[連絡先] 電話0957-35-1272、電子メールkurokawa1101@pref.nagasaki.jp

[区分] 総合・営農（干拓・野菜）

[分類] 指導

[背景・ねらい]

造成直後の諫早湾干拓地は、塩分濃度が高く排水性の劣る細粒土壌で、熟畑化の過程にある。そこで、畑作営農技術の早期確立を目的として、初期営農を想定し、主要な根菜・いも類である秋冬ダイコン、冬ニンジン、春作マルチ及び秋作バレイショについて栽培適応性を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 秋冬ダイコン、冬ニンジン、春作バレイショの総収量は県基準技術目標収量（以下、目標収量）より総じて高く、いずれの品目でも商品化率は県基準と概ね同等である。特に、秋冬ダイコンは多収である（表1、図1）。
2. 階級別にみると、冬ニンジンはL・M、春作バレイショはL以上の単価の高い階級割合が多い（表1）。
3. 冬ニンジンの糖度並びに春作バレイショの澱粉価は高く、品質も良い（表1）。

以上のことから秋冬ダイコン、冬ニンジン、春作バレイショは干拓地での栽培適応性は高い。

4. 秋作バレイショは、出芽前の高温や収穫前の初霜の影響を受け易く、植付期によっては収量のバラツキがあるが、2ヶ年で280kg/a以上の総収量が得られたことから適応性はあるものかと判断する（表1、図1）。

[成果の活用面、留意点]

1. 初期営農の作物選定における基礎資料として活用できる。なお、成果情報名「諫早湾干拓地の初期営農における露地野菜（茎葉菜類）の栽培適応性」を併せて活用する。
2. 営農排水の促進するため、2001年に本暗渠を5mピッチに増設し、それに直交した籾殻補助暗渠とほ場周辺に排水溝を設置し、また、緑肥作物の栽培及びほ場還元による熟畑化に努めた。さらに、畦形成時には必要に応じて降雨前にビニル被覆し、数回のロータリ耕により碎土性を向上させた条件下で栽培した。
3. 干拓地の初期営農においては、既耕地に比べて降雨後の排水不良による機械利用の制限、土の練り返しにより収量が低下するケースが多くなる可能性がある。

[具体的データ]

表1. 干拓地における総収量、階級別割合等

品目	播種年 (植付年)	総収量 (kg/a)	階級割合(個数%)								品質	
			4L	3L	2L	L	M	S	2S	くず	糖度	澱粉価
秋冬ダイコン	01	895	3	30	25	33	10	0	-	0	-	-
	02	1195	57	5	23	15	0	0	-	0	-	-
冬ニンジン	00	573	-	0	0	26	43	24	7	-	-	-
	01	697	-	0	13	28	25	15	9	0	-	-
	02	733	-	0	8	53	28	13	0	0	9.1	-
春作マルチバレイショ	01	321	0	12	33	31	16	8	-	-	-	16.1
	02	414	2	27	30	21	9	7	5	-	-	14.4
	03	346	0	7	20	30	19	13	11	-	-	14.7
	00	163	0	0	7	23	37	33	-	-	-	-
秋作バレイショ	01	360	3	15	16	29	17	20	-	-	-	11.9
	02	287	0	1	6	25	42	26	-	-	-	8.9

注1)バレイショでは4Lを特3Lで読み替える。

注2)澱粉価は100g程度の健全いも15個を愛野馬鈴薯支場の測定機を用いて測定した。また'01年春作はN1.9kg/a区の結果を用いた。

また、'02年秋作の調査区は出芽後50日程度で凍降雪を受けた。参考までに同年8/24の早植え区の澱粉価は11.5であった。

注3)2000年は、ほ場整備直後で土壌の改良が行われておらず、基幹排水路が未整備であり常に溝は乾かず11月上旬には浸水するなど排水が非常に悪い状況であった。また、2000年は本暗渠間隔のピッチは10mであった。

注4)耕種概要は下表のとおりで概ね県栽培基準に準じた。また、表記している西暦は播種(植付)年である。

品目	品種	施肥条件		播種 植付 - 収穫期
		(N-P-K)	栽植密度概数	
秋冬ダイコン	YRくらま	(kg/a)	(本/a)	9月下旬 - 1月中旬
冬ニンジン	紅楽五寸	2.0-1.5-2.0(0)	670	8月下旬 - 12月下旬
春作マルチバレイショ	デジマ	2.5-1.8-2.0(0)	4500	2月中旬 - 5月下旬
秋作バレイショ	デジマ	1.4-1.4-1.2(0)	650	9月上旬(2) - 12月上旬(3)

1: 施肥量、堆肥は長崎県農林業基準技術に準じ、硫酸(21-0-0)、重過磷酸石灰(0-34-0)、硫酸加里(0-0-50)で調整し、CaとMgは無施用とした。

2: 8月下旬('00)、 3: 11月中旬('00、'02)

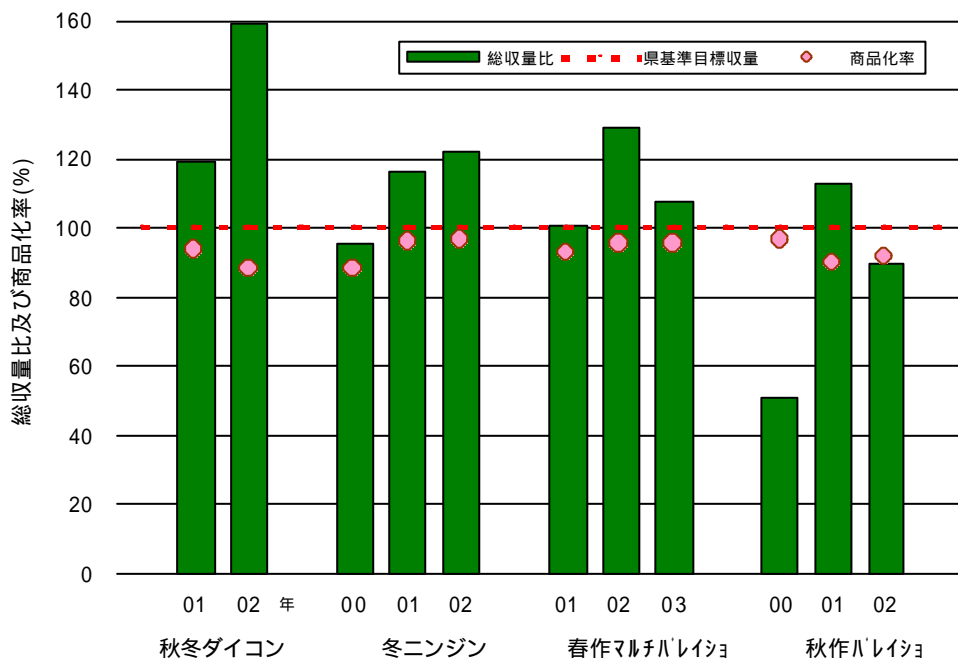


図1. 干拓地における総収量比と商品化率

予算区分：県単(一部国庫)

研究課題名：諫早湾干拓営農対策試験・営農対策試験

研究期間：2000～

研究担当者：黒川陽治、山崎和之、寺井利久

発表論文等：九州農業研究第65号